

【事業実績】

（１）人材育成事業

・講習会・実技研修会（京都市学校歴史博物館）

2024 年 12 月 15 日と 2025 年 1 月 12 日と 25 日の 3 日間にわたり、京都市学校歴史博物館において 3D による資料のデジタル化の専門家を招き、学校資料の 3D デジタルデータ制作の講義と実習、及びそのデータの活用について学習した。講習会によって学校資料の 3D データストック手法の習得及びそのデータの活用の機会が得られ、従前には取組への困難さを危惧する所感が職員や地域の人々から表明されていたが、本講習会の開催によってこうした地域課題解決のための横の広がりを創出する効果があった。

・講習会・実技研修会（京都市歴史資料館）

2024 年 12 月 3 日(火)に京都文化博物館 5 階ギャラリーにて、AI による古文書解読アプリを開発する TOPPAN 株式会社の技術者 3 名を招き、デジタル化された資料の活用に関する技術講習や実際に古文書を解読するワークショップなどの研修会が京都市歴史資料館の主催で開催した。参加者はオブザーバーも含めた 19 名。講習によって開発者と博物館との意見交換が行われ、デジタル化した資料を活用した学芸員の負担軽減に寄与するなどの博物館 DX への方法などが提言された。

・講習会・実技研修会（京の三条まちづくり協議会） <https://map-sanjo.jp/>

2025 年 1 月 11 日(土)、京都文化博物館 6 階会議室において、京の三条まちづくり協議会が進める「三条通デジタルマップ」に関する講習会を、合同会社 PUT/Livelooks 代表下方聖司氏を招いて開催した。講習会ではプラットフォームとしてのマップを活用してどのように町の発展に寄与できるかが検討され、メンバーが デジタルマップの活用方法を学ぶことで地域課題解決への方法を考える機会となった。



京都市学校歴史博物館での講習会の様子①



京都市学校歴史博物館での講習会の様子②



京都市歴史資料館が実施した AI に関する講習会の様子

（２）データストック事業

・データストックに関する先進事例の調査（京都文化博物館）

調査した愛知県の豊田市博物館は 2024 年 4 月に開館した博物館で、「市民とともに作り続ける博物館」を運営コンセプトに幅広い市民の参加を呼び掛けている。同館では「記憶あつめプロジェクト」として様々な記憶を広く市民から投稿してもらい、それをデータ化して未来への資料として収蔵している。これまで博物館におけるデジタル化の取り組みについては、主に収蔵資料がその対象であったが 豊田市博物館では市民の記憶を資料としてデジタル化の対象に位置付けている点が斬新で多の学びがあった。

・地域資料データストック（京都文化博物館）

京都在住の個人が所蔵する近代京都の画家・太田喜二郎の日記を用いた地域資料のデータストック及びオープン化を行った。NPO 法人フィールドの指導を受けながら学芸員が作業補助員 3 名を用いての撮影作業を 14 日間京都文化博物館データセンターで行った。日記 20 冊全ページを撮影し、総カット数は 8606 に及んだ。それぞれ jpeg と raw データで撮影し、Adobe Lightroom Classic で調整した。また、撮影作業においては作業マニュアルを作成、随時改訂し、作業の効率化に取り組んだ。翻刻については、作業員 1 名を用いて学芸員が行い、明治 37 年と明治 43 年の日記 2 冊を行った。総文字数は約 14,000 字に及んだ。データのオープン化としては、文化遺産オンラインに明治 37 年と明治 43 年の日記 2 冊の撮影画像をアップロードすることで公開し、そこにリンクさせる形で researchmap に作成した太田喜

二郎日記コミュニティの中に、当該日記の翻刻データを汎用データベース機能を用いて公開した。

文化遺産オンライン <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/577185> <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/577185>

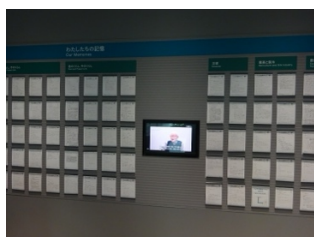
research map 翻刻 <https://researchmap.jp/community-inf/Reprint-of-the-Ota-Kijiro-s-Diary/>

・地域資料データストック（京都市歴史資料館）

近現代京都の郷土史家・田中緑紅の日記史料のデジタル化を実施した。作業期間は 2024 年 8 月から 2024 年 12 月にかけてで、資料の整理と撮影等に作業員 1 名をお願いし、日記 54 点 14,351 コマの成果を得た。整理作業には試験的に古文書読解 AI 技術を導入し、講習会での課題との連携を図りながら知見のフィードバックも実践した。

・企業資料データストック（一般社団法人千總文化研究所）

株式会社千總ホールディングスに所蔵される古文書や写真等の資料 959 件 4,143 カットのデジタルデータストックを行った。この実践を通じて作業者は撮影作業に熟達し、資料のデジタルアーカイブ化に向けた人材育成にも貢献できた。また同社が立地する御倉町の町有文書 284 件 333 点の清掃・整理を実施し情報公開に向けた保存処置が完了しており、次のデータストックに向けた準備も整っている。



豊田市博物館記憶あつめ展示



京都文化博物館データセンターでの作業



HP 上に公開した日記データのトップページ



(株)千總資料データ化のための整理

(3) データオープン化事業

・地域デジタルデータの展示活用のためのワークショップ

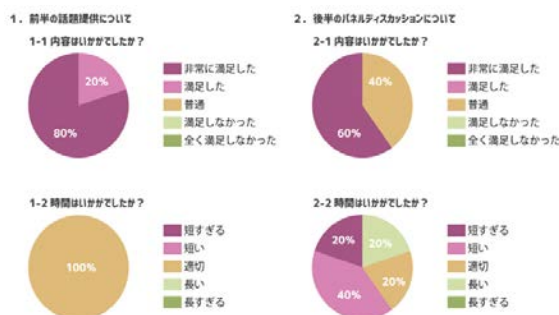
2024 年 12 月 14 日（土）、12 月 21 日（土）、12 月 26 日（木）、2025 年 1 月 5 日（日）、1 月 19 日（日）の全 5 回、デジタル技術を活用した資料の展示鑑賞方法を提案するワークショップを京都市考古資料館で行なった。博物館学芸員を目指す大学生にも参加してもらい人材育成も実践した。ワークショップを実施しない時も期間中（令和 6 年 12 月 14 日（土）～令和 7 年 1 月 26 日（日））は展示として来館者に体験を楽しめる工夫をした。アンケートを実施し、参加者からは概ね好評を得た。「3D をウェブサイトは素晴らしかった。このような展覧会がいつか台湾でも開催されることを願っています」という海外からの参加者の声もあった。

・地域文化財とデジタルデータの活用に関するシンポジウム https://youtu.be/c_6w3-P76ck

2024 年 12 月 6 日（土）京都府京都文化博物館別館ホールにて「三条通の近代洋風建築群ーデジタル技術の多様な活用ー」と題するシンポジウムを開催した。コーディネーターに笠原一人氏を迎え、豊田啓介氏、橋本敏和氏、谷紀明氏、中川大輔氏ら有識者を招き、3D スキャンや BIM 等最新のデジタル技術について、各地の具体的な先進事例から学ぶとともに、当該地域に於ける展開の可能性について検討した。当日の様子は動画撮影し Youtube で公開し、議論をまとめた冊子を作成した。



ワークショップの様子



シンポジウム参加者アンケート結果



シンポジウムの様子